

## 1

# 玉川大学の学生として

## ■ 建学の精神

玉川学園は、知・徳・体の調和的な発達を図る「全人教育」の実現を目指して、昭和4年に創立されました。全人教育は教育の内容に、学問・道徳・芸術・宗教・身体・技術など、人間文化の全部を盛り、各々が理想とする、真・善・美・聖・健・富の6価値を創造し、その調和的な発達を指向するものです。

全人教育はまた、霊肉一致、心身一如の活動としての労作教育によるものとして、その本質は、自ら学び、研究し、創造し、工夫するという自学自律によるべきであるとしています。そして、教育とは尊き自己発見であり、天から与えられた各人の天分を十分に生きること、個性尊重の教育でなければならないとします。

玉川大学の学生として学ぶからには、まず、このような建学の精神の理解に努めなければなりません。具体的には、スクーリングでの講義を通して、全人教育に関するテキストや書物によって、先輩や学友との交流の中で、あるいは玉川の種々の教育活動に積極的に参加するなど、さまざまな学修機会を通じて理解を深めていってほしいと思います。

## ■ 教育学科の学生

「国を盛んならしめる原動力は教育である」という教育立国の信念にもとづき、「教育の源泉は、教師その人」という確信から、全人的教養を身につけた教師の育成を意図して、玉川大学教育学部教育学科の前身文学部教育学科は戦後に設立されました。

ところで、明治期からのわが国の学校教育は、欧米の科学技術や文化の導入という、工業先進諸国に早く追いつくことを目指すものでした。また、戦後は社会制度の変革の中で、教育の民主化が叫ばれ、戦前の価値観は大きく転回しました。そのような欧米化、近代化をほぼ達成するなかで、今日わが国は手本を欧米に求められなくなり、目指すべき目標を失ってきていると言われます。

さらに今日、価値観の多様化、情報化、国際化、少子高齢化など、わが国の社会は激動の最中にあり、それは今後、いっそう加速し、複雑化していくと予想され、不確実で不透明な時代を迎えていると言われています。このような変化の激しい社会にあって、教育も多くの困難な問題を抱え、混迷の度を増してきており、そこでの教師の在り方が問われています。すなわち、その使命の自覚のもとに確乎たる信念をもち、豊かな人間性と優れた指導力とを兼備した教師が求められています。

そこで、通信教育課程では、教育についての学識を教育実践に生かそうとする意欲的な教師の養成を通して、初等教育、幼児教育、中等教育における指導者として活躍できる人材の輩出を目指しています。また、豊かな家庭・社会生活を支援する社会教育の専門家（図書館司書、学芸員、社会教育主事など）の養成を行うこと、さらに、生涯学習が求められるこれからの社会人に必要な幅広い教養を得させることも目標としています。